

平成30年度前期教員長期研修

# 国語科「読むこと」1段階 ステップ表



広島県立福山北特別支援学校  
教諭 柞磨 歩

## 「国語科『読むこと』１段階ステップ表」の活用にあたって

知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の学習指導要領では、指導内容を学年別ではなく段階別で示しています。しかし、実際の学習展開では、特に「１段階」の内容が幅広く、目標及び評価等が抽象的になりやすく、系統的な指導が難しい現状があります。

「国語科『読むこと』１段階ステップ表」は、知的障害のある児童の学習の基盤となる「見る」力を育む指導の工夫を追究する研究において作成しました。

本ステップ表は、８か月から18か月の発達月齢相当の「見る」力の課題を抽出し、新学習指導要領と対応させ、学習場面を想定し、六つの主な「見る」力で項目をステップ表（１）（２）のように整理しました。次の表は、ステップ表（１）（２）の項目をまとめたものです。

本ステップ表を活用すると、スモールステップで指導することができます。また、実態把握、学習課題・目標の設定及び評価等を容易にし、授業づくり・授業改善のためのツールとして活用できます。

表 国語科「読むこと」１段階ステップ表に示す「見る」力の概要

主な「見る」力	ステップ１	ステップ２	ステップ３
共同注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>指さしの理解</li> <li>視線追従</li> <li>交互凝視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要求・共有の指さしの表出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応答の指さし</li> <li>選択的注意</li> <li>指示理解</li> </ul>
記憶（視覚） 目と手の協応	<ul style="list-style-type: none"> <li>物の永続性</li> <li>たたく、つかむ、押す等 手指の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>始点と終点</li> <li>両手の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指の巧緻性の高まり</li> <li>視覚-運動の統合</li> </ul>
眼球運動 視空間認知	<ul style="list-style-type: none"> <li>注視・追視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視線の切り替え</li> <li>空間概念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>追従性眼球運動</li> <li>跳躍性眼球運動</li> <li>両眼視</li> </ul>
視覚認知 弁別・分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な形の弁別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の弁別</li> <li>対応弁別</li> <li>合成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色の分類</li> </ul>
象徴機能 概念形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「同じ」の概念形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵・写真等の意味理解</li> <li>「同じ」の概念の広がり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵・写真等の指示理解</li> <li>カテゴリー等の概念形成</li> </ul>
模倣 象徴遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>延滞模倣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物の機能の理解</li> <li>即時模倣の芽生え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見立て遊び</li> <li>即時模倣</li> </ul>

【特別支援学校（知的障害）学習指導要領解説国語科「読むこと」に関連する「見る」力】

氏 名 ( )

記入者氏名 ( )

## ア 気づき注目する力

イ 指さし、視線などで表現する力

【チェックの評価基準】 下の表の基準でチェックする。

評価	評価基準
◎	8～10割：ほぼできる
○	5～7割：できることが多い
△	1～4割：時々、まれにできる
×	0割：できない

ステップ		ステップ1	ステップ2	ステップ3
主な見る力		指さしの理解，視線追従，交互凝視	要求・共感の指さしの表出	応答の指さし，選択的注意，指示理解
共同注意 言語理解		目の前のものに指さしをすると目線を向ける	欲しいものを見付け，指さしをする	環境に関わらず好きなものに選択的に注意を向ける
		指導者が見ているものに目線を向ける	好きなものを見付け，指導者に伝えようと指さしをする	「～する」等の簡単な言葉を使う
		自分が持っているものと指導者を交互に見る	好きなものを見付け，指導者に伝えようと交互に見る	物や身体部位等を問われると指さしで示す
		遠くのものに指さしをすると振り返って見る	指導者が指さしたのを見て，自分も指さしをする	絵本等の写真や絵の名称を問われると指さしで示す
主な見る力		物の永続性	始点と終点	手指の巧緻性の高まり，視覚-運動の統合
記憶(視覚) 目と手の協応		目の前でものを隠されると，隠されたものを探す	3種の箱に隠されたものの位置を当てる	ハンマーで木玉を打って穴に入れる等視覚的变化がある遊びをする
		布でものを覆っても，下にもがあることが分かる	玉を棒から抜いて缶に入れる	
		箱で隠されたものを覚え，見付け出す	2方向スライディングブロックでベグを抜く	ベグ等方向性のあるものを穴にさし込む
		二つの箱の片側に隠されたものを見付け出す	直線の溝板を始点から終点までなぞる	△□等の形の溝板を始点から終点までなぞる
	たたく，つかむ，押す等手指の活用		両手の活用	
		持つ積み木と置いた積み木をたたく	積み木等を二つ積む	積み木等を三つ積んだり，箱から出し入れしたりする
		母指と他の指でものをつかむ	殴り描きをする	円を描くように線を描く
		スイッチやボタン等を押す	スイッチやボタン等を指先で繰り返しタッピングする	絵本等のページをめくる
		ものを指先で持ち替える	おもちゃ等の紐の先端にある輪に指を入れて引っ張る	片手でトライアングルのひもを持ちバチで数回たたく
主な見る力		注視・追視	視線の切り替え，空間概念	追従性眼球運動，跳躍性眼球運動，両眼視
眼球運動 視空間認知		左右にゆっくりものを動かすと追視する	左を見て右を見て，また左に目線が戻る	絵本がめくられて次の場面になることを予測し追視する
		上下にゆっくりものを動かすと追視する	自分の手の動きを目で追い，手の動きを調整する	絵本や文字等を指導者の指がなぞるのを追視する
		指導者等の行動を十数秒注視する	提示されたものから目を離さずに手を出す	同時に提示された二つの写真や絵等を見比べる
		目の前に提示されたものに手を伸ばす	触れる前に見たものの形に合わせて手の形を合わせる	見本のものと提示されたものを見比べる

《活用方法》

- 1 項目にチェックする。
- 2 チェックした項目を参考とし、個々の目標として設定する。
- 3 選んだ項目は、個別の指導計画や単元の目標等を踏まえ、日々の授業のルーブリック評価等を行う際に活用する。

【特別支援学校（知的障害）学習指導要領解説国語科「読むこと」に関連する「見る」力】

ウ 絵や写真、マーク等を識別する力

氏 名 ( )

エ 絵本や言葉等からイメージを膨らませる力

記入者氏名 ( )

【チェックの評価基準】 下の表の基準でチェックする。

評価	評価基準
◎	8～10割：ほぼできる
○	5～7割：できることが多い
△	1～4割：時々、まれにできる
×	0割：できない

ステップ		ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
主な見る力		簡単な形の弁別	形の弁別・対応弁別・合成	形や色の分類
視覚認知 弁別・分類		筒の穴を見つけ玉を入れる	2×3種の形のはめ板弁別をする	六つの身近なものはめ板をする
		二つ以上の箱から空いている箱を見分けて玉を入れる	2分割された三角形を合成する	4ピースに分かれた顔や身体部位の絵のパズルをする
		ボールと棒等2種類の物を弁別して入れる	長方形3枚に分割された簡単な絵カードを構成する	長方形6枚に分割された簡単な絵カードを構成する
		2種類のはめ板で○の形を弁別する	1種類のはめ板に形を選んで対応させる	複数あるブロックを色ごとに分類する
		2種類のはめ板で□の形を弁別する	縦に三つ並べた見本と対応させて、横に順番に並べる	複数ある○△□のブロックを形ごとに分類する
		2種類のはめ板で△や☆等の形を弁別する	絵の中から形を見つける等、簡単な図と地の弁別をする	身近なものの絵カードを形・色等の属性ごとに分類する
主な見る力		「同じ」の概念形成	絵・写真等の意味理解、「同じ」の概念の広がり	絵・写真等の指示理解、カテゴリー等の概念形成
象徴機能 概念形成		提示された具体物と同じものを選択する	提示された写真カードと同じものを選択する	写真・絵カードにより、状況を理解する
		複数の具体物を全く同じもの同士に分類する	提示された絵カードと同じものを選択する	言語指示により動作語の絵カードを5枚以上選択する
		身近なものの名前を理解する	提示された具体物と同じ写真カードを選択する	15種以上の動作語の絵カードの意味や指示を理解し行動する
		ある言葉での要求に適切に行動する	具体物と写真・絵カードを対応させる	
		日常場面において具体物の指示で状況を理解する	要求するために具体物や写真・絵カードを指導者に示す	複数の具体物を動物、食べ物等に仲間分けする
		野球ボールも、サッカーボールも同じ「ボール」であると捉える等、同一名称で異なる具体物による分類をする	野球ボールも、サッカーボールも同じ「ボール」であると捉える等、同一名称で異なる写真カードの分類をする	複数のカードを動物、食べ物等に仲間分けする 複数の具体物、カードを動物、食べ物等に仲間分けする
主な見る力		延滞模倣	物の機能の理解、即時模倣の芽生え	見立て遊び、即時模倣
模倣 象徴遊び		繰り返された簡単なパターン身体模倣をする	「スコップは砂をすくうもの」等、ものの機能が分かる	新しい即時の身体模倣をする
		繰り返しの動作模倣の一部を相手に合わせて行う	聞きなれない単語を即時で模倣する	知っている曲のテンポやリズムの一部を真似する
		知っている単語を即時で模倣する	パター的な3音節の発声の模倣をする	人形等を使って役割交代を含むやりとり遊びをする
		コップを持って飲もうとするなど、日常操作の模倣をする	電話等のおもちゃを使用した見立て遊びをする	似た形の積み木等を車に見立てるといった遊びをする

3